



インコが園で過ごすようになって一週間が経ちました。「きれい！」という子どもたちの言葉、「かわいい！」という声が聞こえてきます。お迎えしお披露目したときに「みんなで大切にしていってインコを守ろうね。」と先生たちで讃美歌をうたいました。

みことたちは小さくてもお守りなされる神さま。きつとどんなものでもひとつひとつすべて、神さまは見守っていてくれるという歌をのびう。さらに小さいものは、より気にかけて守って下さるといふことなのでしょう。

先日大先輩の旧職員の先生が、「私の最近の腰痛で困った」という話を受けて、「荷物を持ち上げようとする時は、小指をしっかりと意識して持たないとダメ。」と、教えてくれました。物をつかむ時に小指を使うことは稀です。そもそも手を使う時にあまり小指のことを意識していませんし、活用もしていない気がします。先生は、例えば小指という身体の一部も、身体全体と結びついていて大きく影響しているのだ、一番小さいものを大切にしないと、ある時全体に不調和が現われかねないといふことを伝えようとしてくれたのでしょう。それならば「自分の身体はもちろん、「世の中」という世のもの...、そういうことなのだ」と思いました。ひとつひとつすべて意味深い存在とその働きによって全体が支えられ生かされているのですね。もうひとつこの話をお聞きして思いました。矢張り「小さい」とは必ずしも見た目のことでもなく、もしかすると目で見ても小さいものが大きな意味を持っていたりすることもありますから、絶対的なものではないのかもしれませんが、神さまの目からすると、すべてのものが「小さく」そして「大きい」のかもしれないとも思いました。

私たちも自分が小さいと思っているものの中に大きさを感ぜられるなら、世界が変わって見え、自分の心が少しは抜がったように思えるのでしょうか...

さあ、6月 雨の季節を迎えます。私たちが気がつかない、例えば、庭の片隅の雨の中の葉っぱの下でも、大きなドラマが展開しているかもしれません。そんな身近な出来事にも、遠く離れた世界のどこかの、実は今の自分とつながっている小さくても大きな営みにも、耳を傾けていたいと思います。